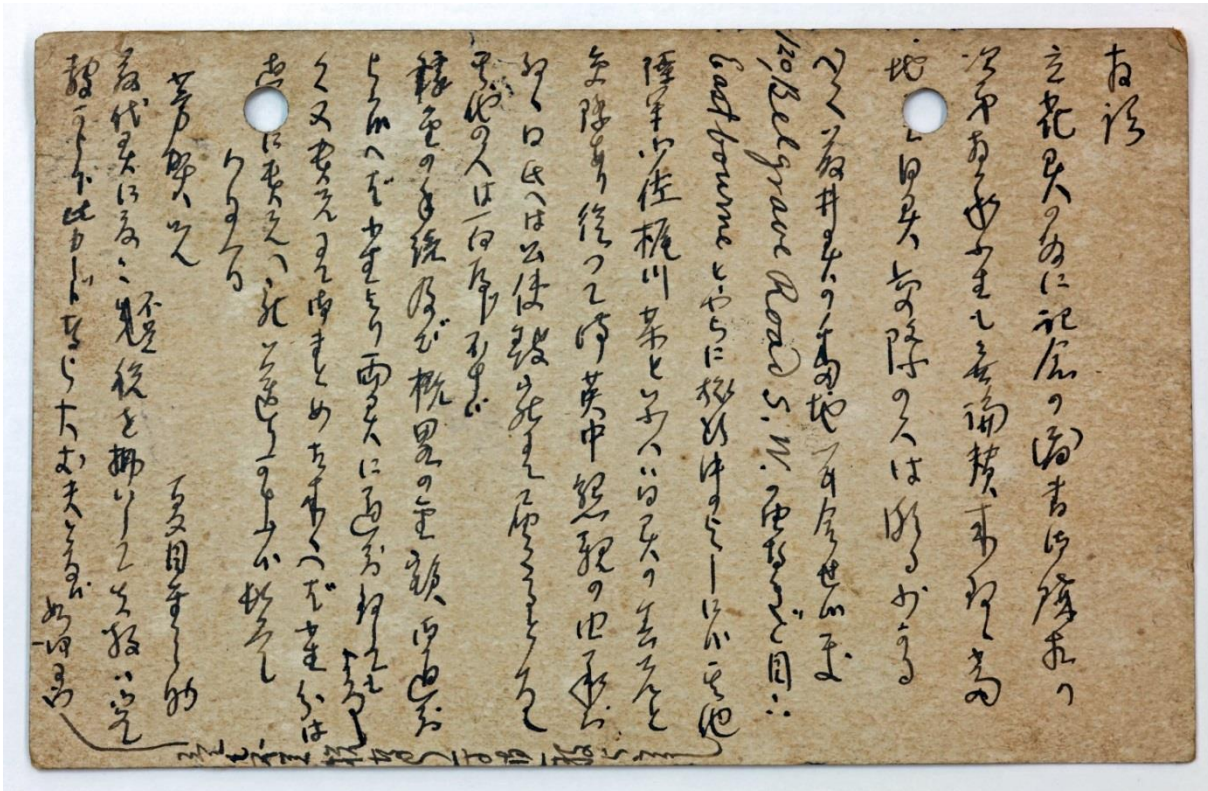


夏目漱石の自筆はがき等について

一九〇一年八月一日付 芳賀矢一あて夏目漱石のはがき



【本文】

拝啓

立花君の為に記念の図書御購求の次第拝承小生も無論賛成致候 当地にて同君交際の人は頗る少かるべく藤井君の番地聞合せ候処 120, Belgrave Road S.W. の由なれど目下 Eastbourne とやらに旅行中のよしに候其他陸軍少佐梶川某といふ人は同君の舎兄と交際あり従つて滞英中懇親の由承知致候 同氏へは公使館宛にて届く事と存候其他の人は一向存じ不申候

醸金の手続及び概略の金額御通知被下候へば小生より両君に通知致してもよろしく又貴兄にて御まとめ相成候へば小生分は直ちに貴兄へ宛御送可申上候 頓首

八月一日 夏目金之助

芳賀兄

藤代君に度々不足税を払はして失敬御容赦可被下此カードなら大丈夫と存候如何にや是も不足税なら一寸御一報被下度候

【意識】

拝啓 立花君のために記念の図書をかうという件を伺いました。私ももちろん賛成します。

こちら（ロンドン）で立花君と交際のあった人は非常に少ないです。藤井君の番地を聞きました。120, Belgrave Road S.W. というところですが、目下 Eastbourne というところに旅行中とのこと。そのほか、陸軍少佐の梶川某という人は、立花君の弟と交際があったためにイギリス滞在中に親しかったと承知しています。同氏への連絡は公使館あてで届くことと思いません。その他の人は一向にわかりません。

醸金の手続きおよび、おおよその金額をお知らせくだされば、私から二人に通知してもいいので、あなたがまとめてくだされば、私の分はすぐにあなた宛てにおくります。

八月一日 夏目金之助

芳賀兄

藤代君にたびたび不足税（郵便料金か）を払わせている失敬をお許ください。このカードならば大丈夫だと思いがすがいかがでしょうか。これも不足税になるようならお知らせください。

一九〇〇年二月二日付 藤代禎輔あて夏目漱石の絵はがき



【本文】

万一手紙ヲ出スナラ公使館ニアテ
テ呉玉ヘ一番慥カト思フ

倫敦ノ古本屋ニハ欲イ本ガ沢山ア
リマス一冊モ御齒ニ合フ者ハアリ
マセン

此絵葉書ノ処ハ僕ガ到着ノ翌日マ
ゴツイタ処ダヨ

ナシノ礫の御小言ニハ少々恐縮シ
タガ君ダツテ一杯御機嫌デナケレ
バ葉書杯ハカクマイ此前ノ葉書ハ
立花ガヨコシタノデハナイカ

倫敦ノ天氣ノ悪ニハ閉口シタヨ
君等ハ大ゼイ寄ツテ御全盛ダネ僕
ハ独リポツチデ淋イヨ学校ノ講義
ナンカ余リ下サラナイヨ伯林大学
ハドウカネ英語モ中々上手ニハナ
レナイ第一先方ノ言フ事ガハツキ
リ分ラナイコトガアルカラナ金ガ
ナイカラ倫敦ノ事情モ頓ト知レナ
イ勉強モスル積ダガソウハ手ガ廻
ラナイ独乙皇帝ハ婆サンノ鉄椎ニ
遭ツタソウダ丁度博浪ノ椎ト云フ
趣ガアル面白イ今日ビスケツトヲ
カチツテ昼飯ノ代リニシタ余リビ
ールヲ飲ンデハイケナヨ左様ナラ

十一月二十一日

85 Priority Road, West Hampstead 夏目金

【意訳】

(前略)

(便りがなくて) なしのつぶて
だというお小言には恐縮したけれ
ども、君だつて一杯(酒を飲んで)
ご機嫌でなければ葉書なんか書か
ないだろう。この前の葉書だつて、
立花が寄越したものでないか。

ロンドンの天氣が悪いのには
参ったよ。君たちは大勢寄つて全
盛だね。僕は独りぼっちで淋しい
よ。学校の講義なんかはあまりく
だらないよ。ベルリン大学はどう
かね。英語もなかなか上手にはな
れない。第一、相手の言うことが
はつきりわからないことがあるか
らな。金がないからロンドンの事
情もぜんぜん分からない。勉強も
するつもりだけど、そうは手がま
わらない。

(後略)

一九〇一年一月三日付 藤代禎輔あて夏目漱石の絵はがき



【本文】

下宿の不平は僕も大有だつたが一週二十五志の場所を見出して汚い處に籠城して居る只今は頗る快適だ下宿は方々尋ねて歩いたが日本人のふるく居る處は皆「スポイル」して仕舞つて高くて悪い様だ
余りビールを飲まない様余り美人に近付の出来ぬ様天帝に祈祷して新年の御慶を申上ます

僕は書物をかつて仕舞ふから又辺鄙な處に居るから家がやかましいから金と不便と遠慮がハチ合せをして頗る謹直である

倫敦に遊びにこられるなら僕の処へき給へ安い事は受合いだ

一月三日

藤代兄

金之助

【意訳】

下宿の不平は僕も大ありだつたけれど、一週二五シリングのところを見つけて出して汚いところに籠城している。今はとても快適だ。下宿は方々訪ねて歩いたが、日本人が古くからいるところは皆「スポイル」してしまつて（ダメになつてしまつていて）高くて悪いようだ。

あまりビールを飲まないように、あまり美人に近付きのできないように、天帝にお祈りして新年のお慶びを申し上げます。

僕は書物を買つてしまふからまた辺鄙なところにいるから、家がやかましいから金と不便と遠慮が鉢合わせしてとても謹直だ。

ロンドンに遊びに来られるなら僕の所へ来たまえ。安い事は受けあいだ。

一月三日

藤代兄

金之助

○夏目漱石(本名・金之助) 1867年(慶応3年)-1916年(大正5年)

- ・小説家。英文学者。江戸牛込馬場下横町(東京都新宿区牛込喜久井町)生まれ。英文学者として東京帝大などで教鞭をとったのち、「吾輩は猫である」が好評を得て、東京朝日新聞社に専属作家としてむかえられる。
- ・多くの作品を著し、明治時代を代表する小説家である。

○^{はがやいち}芳賀矢一 1867年(慶応3年)-1927年(昭和2年)

- ・国文学者。福井城下佐佳枝上町(浜町)生まれ。浜町の川口小学校に在籍中、1873年(明治6年)に新潟に引越す。東京帝大卒。東京帝大教授。國學院大学長
- ・明治中期から大正期にかけて東京帝大、國學院大で活躍した国文学者で、国定教科書の編纂にも携わった。
- ・1900年からの留学中にドイツで学んだ文献学(広義のドイツ学)の考 え方や手法を国学(江戸時代からの古学、古典学)に取り入れて「日本文献学」に発展させ、近代的な国文学研究の基礎を築き、「国文学の父」とも言われる。
- ・著書に「国文学読本」(立花銑三郎と共編)、「国文学史十講」、「国民性十論」など多数

○^{ふじしろていすけ}藤代禎輔(号・素人) 1868年(慶応4年)-1927年(昭和2年)

- ・ドイツ文学者。下総検見川(千葉県)生まれ。東京帝大卒。京都帝大で初代文学部長を務めたドイツ文学研究の草分けの一人。
- ・号は素人(そじん)。著作に「猫文士気鱗(きえん)録」、「草露集」などがある。

担当 生涯学習・文化財課